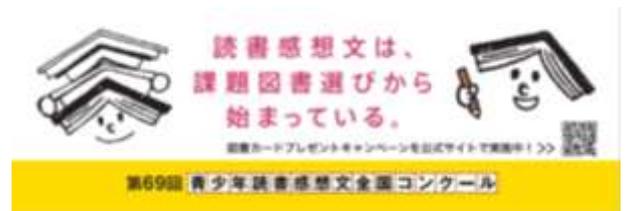


キラキラとプールの水面がまぶしい季節です。図書館では就職を希望する生徒たちが企業研究を始める姿をちらほらと見受けるようになりました。Y 校生が素晴らしいのは、企業研究の際に財務諸表を読み解くことができること！就職してからもさまざまな資格が役に立つのはもちろんのこと、就活のスタート前からこんなに有利だなんて、商業高校ならではの良さですね。これからどのような仕事に就いても、いま得ている知識は必ず何かの役に立つと思います。私もまずは『マンガでわかる財務3表超入門』國貞克則著（336ク）から勉強を始めます。

司書

📖 第69回 青少年読書感想文コンクール 📖

今年の読書感想文の課題図書が発表されました。課題図書や、お気に入りの本の感想を、1800字から2000字以内で書いてください。締め切りは夏休み明けにあらためてお知らせします。



読書感想文コンクールのサイトから課題図書の本の内容を抜粋しましたので参考にしてください。

< 第69回 青少年読書感想文全国コンクール 課題図書 高校生の部 >

○安壇美緒『ラブカは静かに弓を持つ』(913ア)

少年時代に心に傷を負い、深海魚の一種・ラブカのようにひっそり生きてきた、著作権の管理団体に勤める孤独な青年・橘は、上司から音楽教室へ潜入調査を命じられる。スパイという身分を隠して通い始めた教室で、師や仲間と出会い、チェロ講師・浅葉の演奏に魅了され、自らもチェロを奏でる喜びに目覚めるが――。本屋大賞にもノミネートされた、読後感も美しい小説です。

○白石優生『タガヤセ！日本：「農水省の白石さん」が農業の魅力教えます』(520シ)

農業ってこんなに面白い！若き官僚 YouTuber として多くのメディアにも登場する著者が、最新の農業から、実はすごい日本の農作物のこと、さらには日本の農業の未来までを語る1冊です。

○アンヌ・スヴェルトルップ＝ティーゲソン『昆虫の惑星』(489ア)

虫が苦手という人は多いが、虫の世話になっていない人は地球に1人もいない。ヒトは、多くを昆虫に依存している。あなたの知らないところで黙々と仕事をしている昆虫たち――。ノルウェーの女性昆虫学者が、奇妙で美しく風変わりな虫たちの世界へと誘うノンフィクションです。

📖 今月のおすすめ本 📖

○高橋英之『人に優しいロボットのデザイン「なんもしない」の心の科学』(548タ)

ロボットといえば、生活を便利にするためや社会をよくするために作られていることが多いのかもしれませんが、この本には、そばにいるというだけで人を支えてくれるようなロボットを開発するに至る様子が書かれています。スーパーコンピューターを駆使して行われているようなイメージであったロボット研究について書かれた内容は、とても哲学的でした。認知心理学や脳科学の技術を使い、「君の『大丈夫』になるために、ただ何もしないで傍にいてくれる」ロボットを開発することは、これまでのロボット開発とは違う角度から人々の心を豊かにする存在を作り出すとともに、人間の本質を見つめなおすことでもあるのかと思いました。

📖 留学記 📖

今年も長い留学から帰国した生徒から胸躍る留学の日々の話を聞きました。留学するということが貴重な財産になると感じられる本を集めてみました。



○実川真由・元子『受けてみたフィンランドの教育』(377シ)

フィンランドに高校2年生で1年間留学した実体験をもとに、フィンランドの教育について書かれた本です。日本との教育観の違いもよくわかります。こんな体験をしたら自分がほんとうにやりたいことが見つけれられるのかもしれない。各章ごとに、母親からの解説というページもあり、留学に送り出す家族の覚悟や思いなども伝わってきました。

○山本つぼみ『あたらしい高校生』(376ヤ)

大阪の公立高校生がアメリカの大学への留学を決意し、受験し、合格し、入学に至るまでの頑張る様子が書かれている本です。留学を決意してから週7日頑張っていた部活を高2で退部し英語の勉強に打ち込んだことや、奨学金を得るための苦労、面接のための努力などは、Y校卒業後に留学を考えている生徒にとって、とても具体的で参考になると思います。

○ジャパントイズ編『1/2,500,000の留学 それぞれの留学のカタチ』(377ニ)

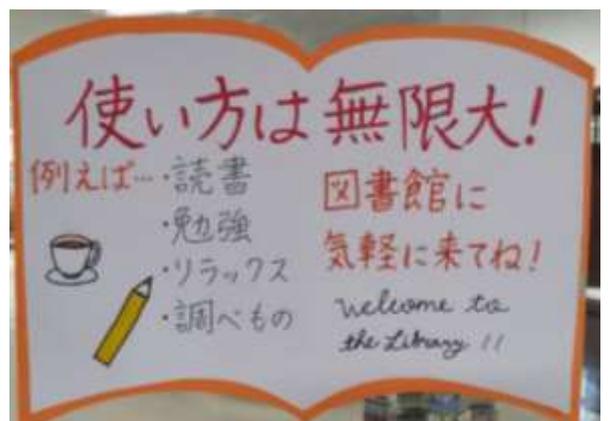
本のタイトルにある250万というのは日本の大学生の人数で、その中の特別な1人に、という意味を込めてつけられたタイトルなのだと思います。この本では15人の留学体験が書かれていて、インド・中国・フィリピン・韓国・アメリカ・オーストラリア・トルコ・ロシア・フランス・イタリア・デンマーク・スペイン・ケニア・メキシコ・キューバと、行先も様々な体験記を読むと、居ても立っても居られないような気持ちになってきます。留学しようと考えたきっかけも、その先の目標もさまざま、良いことばかりではない話も書かれていますが、その先にある何かのために一歩踏み出してみようかな、という勇気もわいてきそうな本です。

○徳仁親王『テムズとともに——英国の二年間』(288ナ)

天皇陛下がまだ皇太子さまだったころに、イギリスのオックスフォード大学へ留学したことを記した本です。真摯に研究に取り組む姿や、日々の洗濯やアイロンがけ、自転車に乗って買い物をしたりパブを巡ったり図書館に通ったりしたこと、音楽を楽しむ姿、友人たちと過ごす様子、テニスのこと、テムズ川のボート競技のこと、父や母(上皇さまと美智子さま)への思い、欧州中の高貴な方との触れ合いなど、どのページからも新鮮な驚きを感じます。大雨の日に傘が無くなってずぶ濡れで帰ることになってしまったのに、誰かが濡れずに帰ったと思えば……と考える陛下のお人柄が偲ばれる本です。

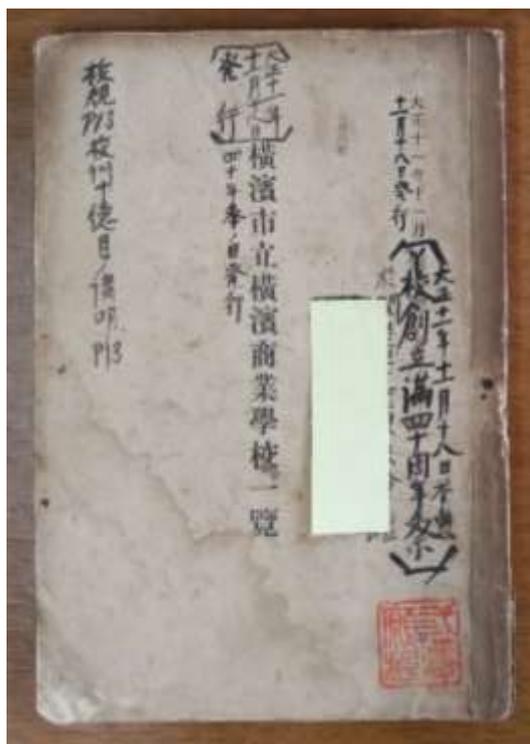
～ 図書委員会からのお知らせ ～

図書委員会では、図書館にいっぱい来てもらえるように、ポスターを作りました。校内の3か所に貼ってあります。さがしてね。



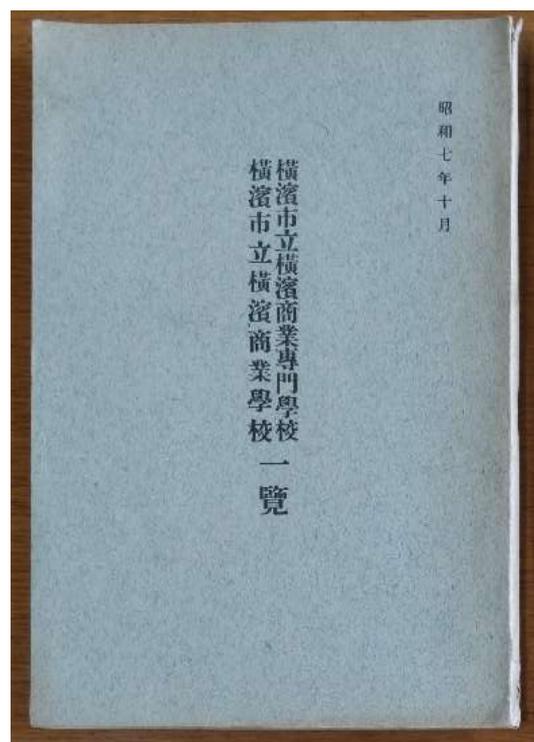
Y校アーカイブ vol. 18 「横濱市立横濱商業學校一覽」

「横濱市立横濱商業學校一覽」は、学校の沿革から始まり、学則や生徒数、職員の名前や卒業生の状況、教育課程や設備の概要など、学校のあらゆる情報をまとめたものです。図書館で保管されている中で一番古いものは大正11年11月に発行されたもので、大きさはちょうどY校生の持っているスケジュール帳ほどの約22cm×15cm、厚みも1cm弱と同じくらいです。全160ページから成り、70ページから76ページまでの7ページを使って図書の出借規則や図書貸出作業などにあたる事務員の内規として図書の注文や受入れを行うこと、閲覧室の整理整頓を行うことなどが詳細に書かれていました。



大正11年版

ピアノ伴奏譜もある校歌の裏面は校訓です



昭和7年版 当時の校舎全景と、校舎平面図です

